

第 31 回反応と合成の進歩シンポジウム

開催報告	<p>討論主題である「ライフサイエンスを志向した理論, 反応および合成」にふさわしく, 複雑かつ多様な構造様式をもつ生物活性化合物の全合成, 不斉合成を含む新規触媒や新規合成反応の開発, 受容体の解明やリガンドの設計と合成など分子認識や機能性分子に関する発表に加えて, 創薬を目指した医薬品化学など発表内容は多岐にわたった.</p> <p>特別講演は, 大阪大学大学院理学研究科教授原田明先生から「超分子ポリマーの設計と構築」と題する生体内での低分子化合物やタンパク質, 多糖類, 核酸などの分子間相互作用による超分子ポリマーの形成を人工的に合成し, 生体内での構造およびその機能の解明のみならず, 生体機能を越えた機能性分子の創製について, また京都大学大学院工学研究科教授吉田潤一先生から「カチオンプール法とカチオンフロー法 有機カチオンを用いる合成反応の新展開」と題する不安定で寿命が短い有機カチオンを蓄える方法, 有機カチオンを連続的に生成させる方法さらにはマイクロリアクターを用いた画期的合成法について, それぞれ最先端の研究成果が紹介され, 参加者に深い感銘を与えた.</p>
討論主題	ライフサイエンスを志向した理論, 反応および合成
日時	平成 17 年 11 月 7 日(月), 8 日(火)
会場	神戸国際会議場(神戸市中央区)
演題数	口頭発表 30 件、ポスター発表 116 件
特別講演	原田明先生 (大阪大学大学院理学研究科教授) 「超分子ポリマーの設計と構築」 吉田潤一先生 (京都大学大学院工学研究科教授) 「カチオンプール法とカチオンフロー法 有機カチオンを用いる合成反応の新展開」
参加者数	一般会員 271 名、学生会員 150 名、非会員 94 名
実行委員会連絡先	〒658-8558 神戸市東灘区本山北町 4-19-1 神戸薬科大学薬品化学研究室 第 31 回反応と合成の進歩シンポジウム実行委員長 内藤 猛章 E-mail: taknaito@kobepharm-u.ac.jp Tel & Fax: 078-441-7554

過去の主催シンポジウムの資料の例

第4回次世代を担う有機化学シンポジウム	
開催報告	薬学会に提出した報告書からコピーペーストしてください
討論主題	有機化学全般（天然物化学、医薬品化学、生物有機化学、有機物理化学等も含む）
日時	平成18年5月19日（金）、20日（土）
会場	大阪大学コンベンションセンターMOホール（大阪府吹田市）
協賛・後援等	×××
演題数	口頭発表 ××件
参加者数	一般×××名、学生××名
実行委員	国嶋 崇隆（神戸学院大学薬学部） 実行委員長 椿 一典（京都大学化学研究所） 田中 正一（九州大学大学院薬学研究院） 大野 浩章（京都大学大学院薬学研究科）
世話人	飯田 剛彦（万有製薬） 伊藤 彰近（岐阜薬科大学） 伊藤 久央（東京薬科大学生命科学部） 内山 真伸（理化学研究所） 浦野 泰照（東京大学大学院薬学系研究科） 生頼 一彦（日産化学工業） 加藤 恵介（東邦大学薬学部） 亀位 勝秀（第一アスピオファーマ） 北垣 伸治（金沢大学薬学部） 栗林 健（第一三共） 近藤 和弘（名古屋市立大学大学院薬学研究科） 鈴木 一郎（広島大学医学部総合薬学科） 高須 清誠（東北大学大学院薬学研究科） 中村 精一（北海道大学大学院薬学研究院） 蓮岡 淳（武田薬品工業） 日置 英彰（徳島文理大学薬学部） 真木 俊英（長崎大学共同研究交流センター） 松永 浩文（熊本大学薬学部） 松谷 裕二（富山大学薬学部） 宮岡 宏明（東京薬科大学薬学部） 宮部 豪人（京都大学大学院薬学研究科） 山田 健一（京都大学大学院薬学研究科） 好光 健彦（大阪大学大学院薬学研究科）